

# こうちミュージアムネットワーク通信

2014. 5 VOL.12

目次

CONTENTS

- 土佐の天然記念物「四国産ニホンカモシカ」…………… P1
- 随想「コウモリ雑話」…………… P2
- 会員紹介「特定非営利活動法人 地域文化資源ネットワーク」  
「NPO高知文化財研究所」「薫工ミュージアム」「海洋堂かっぱ館」… P3

- 研修会レポート「四国ミュージアム研究会」…………… P4  
公開研究報告…………… P4
- 活動報告…………… P5~6
- 時の話題「しおりちゃん」…………… P6
- コラム「科学館って何!?!」…………… P7
- 図書の窓「地域を変えるミュージアム」…………… P7
- 会員一覧…………… P8



## 土佐の天然記念物

### ▲四国産ニホンカモシカ

アニマルランドでは四国産に限定してニホンカモシカを飼育しており、現在では4ヶ所の動物園で四国産ニホンカモシカが11個体飼育されています。

ニホンカモシカは昭和30(1955)年2月15日に「日本特有の動物で著名なもの」として特別天然記念物に指定された日本固有種です。ではなぜタイトルが「四国産ニホンカモシカ」としているのか、いまだ、研究段階ではありますが地域によって差異が見られ、日本の動物園では本州産、四国産、九州産と大きく3つに区分して取り扱っているためなのです。

### ◆四国産

### ニホンカモシカ

この中で現在もつとも絶滅が心配されているのが四国産ニホンカモシカです。平成25(2013)年には、高知市の工石山で確認されました。本来の生息地は高知と徳島の県境を中心とした地域であったが、様々な要因から住みにくくなり、ニホンカモシカが広い範囲に分散したため、確認できる個体が減っています。

アニマルランドでは野生状態もふまえ、まずは飼育下での四国産ニホンカモシカを増やし、絶滅の心配がなくなるように、繁殖研究を進めていきたいと考えています。

小さな動物園の大きな挑戦、ぜひアニマルランドに足を運んでください。

(わんぱーくこうちアニマルランド

飼育員 岡本 宏昭)

# コウモリ雑話

「館の中で、『カキゴウモリ』が『カキゴウモリ』」



高知県初記録のモリアブラコウモリ

認定特定NPO法人  
四国自然科学研究センター  
谷地 森 秀 一

息していた証拠として保管しています。

高知県ではアブラコウモリを含め、キクガシラコウモリ科キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、ヒナコウモリ科モジロコウモリ、クロホオヒゲコウモリ、ノレンコウモリ、モリアブラコウモリ、ヤマコウモリ、チチブコウモリ、ウサギコウモリ、ユビナガコウモリ、テングコウモリ、コテンダコウモリ、オヒキコウモリ科オヒキコウモリの3科14種のコウモリが確認されています。そのほとんどが、森林の中やそのまわりで暮らし、昼間は洞窟や樹洞(種によって好みが変わります)で休み、夜になると食べものとなる昆虫を探して夜の空を飛びまわります。

四国自然科学研究センターでは、四国地域におけるコウモリの生息状況調査を平成15(2003)年4月より進めています。ここでは、これまでに高知県で確認された種とトピックス的な事例を紹介しています。

## ○高知県でも生息が確認されたコウモリ

平成25(2013)年までの間に、チブコウモリ、コテンダコウモリ、ノレンコウモリ、クロホオヒゲコウモリ、モリアブラコウモリ、ウサギコウモリの6種が高知県にも生息していることが新たにわかりました。

これらのコウモリの確認は、夜間に森林内で行った飛翔個体の捕獲によるものです。捕獲調査では、環境省から使用許可を受けたカスミ網を用いたり、コウモリを捕獲する専用の道具であるハーブトラップを用いたりしています。

## ○多くの種類が見つかる天狗高原

平成24(2012)年〜平成25(2013)年にかけて津野町の天狗高原で調査を実施したところ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、モジロコウモリ、クロホオヒゲコウモリ、ノレンコウモリ、モリアブラコウモリ、ウサギコウモリ、テングコウモリ、コテンダコウモリの、9種が確認されました。これほど多くの種が確認される場所は全国的にも珍しく、大変興味深いです。コウモリが暮らすために必要な昆虫が多いこと、休み場となる樹洞や洞窟など多様な環境が整っていると考えています。

## ○人工物を利用するコウモリ

キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、ユビナガコウモリ、モジロコウモリなどは日中の休息や子育て、冬眠などを行う場所として洞窟を利用して、冬眠などをを行う場所として洞窟だけではなく、人がつくった人工洞(防空壕、トンネル、野菜室)なども利用

することがわかってきました。四万十市西土佐地域や須崎市下分地域では千頭以上の集団が子育てや冬眠に利用している場所が見つかっています。人がつくった環境を利用して子孫を増やしたり、分布を広げたりしていることがわかってきています。

平成26(2014)年度も引き続きコウモリの調査を展開していきます。コウモリの調査には専門知識と環境省や都道府県などから特別な許可が必要なのですが、私たちはコウモリの魅力を知ってもらいたくて調査への参加呼びかけをしたり、観察会を開催したりしています。興味を持たれましたら、また、もしコウモリの死体を見つけたら、ぜひ当センターまで連絡をしてください。



ユビナガコウモリ冬眠集団



コウモリ捕獲器 (ハーブトラップ)

## 特定非営利活動法人 地域文化資源ネットワーク

設立は平成21(2009)年。地域文化の調査・記録・保存・発信・活用に関する事業を行うことを目的に掲げ、具体的な活動として地域文化の調査・研究・保存事業、博物館・資料館等の活動を支援・強化する事業、などを定款に挙げています。

これまでに最も印象に残っている事業は、旧魚梁瀬森林鉄道の支線調査です。平成23(2011)年度から2カ年にわたり、ある時は図書館、文書館の書庫にこもり、またある時は魚梁瀬の山中深くに分け入って調査を続け、平成25(2013)年度末ようやく報告書をまとめました。様々な資質と専門性をもったメンバーがいたからこそできた仕事でした。支線軌道跡については、観光活用というテーマで現在も引き続き関わっています。

昨年度から博物館の資料調査・整理の仕事もいただいています。そもそも、学芸員資格を活かす機会のない人(たくさんいるはずです)に、その能力を発揮し、情熱をぶつける場を提供することが設立趣旨のひとつでした。資料調査・整理はもちろん、展示の企画から準備、運営など、今後もミュージアムと連携できる方向に活動を展開させたいと思います。

(特定非営利活動法人 地域文化資源ネットワーク 中村 茂生)



## NPO高知文化財研究所

NPO高知文化財研究所は平成23(2011)年4月に立ち上げた任意の民間非営利団体です。当研究所の役割は、市町村からの文化財相談、地域文化財の調査研究、文化財を活かした地域の活性化対策などです。得意分野は文化財建造物の調査と保存活用、重要な景観調査と整備活用計画、重要伝統的建造物群保存地区の建造物保存活用などです。近年は九州の天草市や平戸市、関西では追手門学院大学や京都文教大学からの依頼で、地域住民が中心になった地域遺産の活用や地域活性化の事例を講演しています。

この3年間で、高知文化教室の講座「文化財を楽しむ」講師、「室戸市吉良川の町並み」の伝統的木造民家の修復保存、津野町重要文化的景観整備での吉村虎太郎生家活用計画、四万十遺産ネットワークによる「四万十街道ひな祭り」への企画指導など、地域文化財のハードの整備から観光客の入り込み企画などのソフトの展開まで幅広い仕事に関わっています。NPO高知文化財研究所の今後の活躍にご期待ください。

(NPO高知文化財研究所代表 溝渕博彦)



愛媛県宇和島市の重要文化的景観「遊子水荷浦の段畑」津野町住民研修

## 会 員 紹 介

### 薬工ミュージアム

薬工ミュージアムは、日本全国数か所に「アール・ブリュット」を主に扱う美術館を建設するという日本財団が出資するプロジェクトの二環で、平成23(2011)年の12月、高知市南金田の江ノ口川程近くにある土佐漆喰でできた薬工倉庫をリノベーションした施設としてオープンしました。館の運営はNPO法人ワークスみらい高知が行っています。蔵の趣を残しながら、レストラン(土佐バル)、多目的ホール(蛸蔵)等との複合施設「アートゾーン薬工倉庫」として楽しんでいただけたところが大きな特徴でもあります。

「アール・ブリュット」はフランスの画家、ジャン・デュビュッフの言葉で、専門の美術教育を受けていない人々が既存の枠組みにとられずに生み出す表現などを指したとして知られています。日本語としても「生の芸術」などと訳されています。現在私たち職員は、障がいのあるアーティストたち、そして障がいの有無に関わらず、ボーダーを越える魅力的なアートや表現に注目する展覧会作りや、館内外でのワークショップ活動に奮闘しています。

今後の役割の一つとしては、人々の生活に近いところで、より創造的な活動を立ち上げていくことだと考えています。さまざまな団体や施設との連携もさせていただきながら、地域に根づく事業を行っていきたくと考えています。

(薬工ミュージアム 大内郁)



### 海洋堂かっぱ館

海洋堂かっぱ館は平成24(2012)年、四万十町に誕生しました。地元の木や土を使ったユニークな建物は二つの川の合流点に位置しています。その一つ「打井川」は、「川の外科医」と呼ばれた近自然河川工法の第一人者、福留修文氏の設計により改修工事が行われ、ますますカッパが棲むにふさわしい環境となりました。

高知県には「シバテン」や「エンコウ」など昔から伝わるカッパ伝承がいくつもあります。館内に展示しているカッパは、「四万十川カッパ造形大賞」というコンテストで全国から集まった全く新しいカッパ達です。各地に伝承や目撃情報が残るカッパは日本人共通のキャラクターとも呼べる存在ですが、千点を超える応募作品の中には一つとして同じ姿をしたものはありません。

かっぱ館よりも1年早くオープンした海洋堂ホビー館四万十では、フィギュアメーカー海洋堂の造形師らによる作品を中心に展示していますが、かっぱ館のカッパを作ったのはほとんどがアマチュアや素人の方達です。それでも、個人の強い想いが込められたカッパ作品からは、プロの技とは一味違った魅力が感じとれるはずです。

平成26(2014)年7月には2号館のオープンも予定しており、さらには「第4回四万十川カッパ造形大賞」の作品募集も開始いたしました。四万十町がカッパに乗っ取られる日も近い? かもしれません。

(海洋堂かっぱ館 谷本道子)



# 四国ミュージアムネットワーク研究会

日時：平成26年2月16日・17日  
場所：今治市河野美術館ほか

第10回目を迎える四国ミュージアム研究会が、愛媛県今治市で開催された。今回のテーマは『小規模館を育てる眼差し』。人員の削減・非正規化や財政難などに伴い、普及振興活動の低迷や事業の継続が困難になるなど、小規模館は様々な問題を抱えている。今後、小規模館をどう育てていくべきなのか、本会はそのヒントを探るべく企画された。

まず、今治城・今治市河野美術館の藤本蒼博氏による趣旨説明があり、小規模館問題の改善に向けてのポイントとして、基盤となる運営状況の把握とセツトで改善の具体案を得ることが重要であり、成功モデルを見つけること、なければ構築すること、そのために必要な情報や経験を集集させることが本研究会の目的であるとのことだった。

次に、今治市村上水軍博物館の田中謙氏より「四国地区博物館基礎データアンケート調査票 集計・分析例」として報告があり、82館からの回答をもとに四国内における博物館の運営状況・事業状況を知ることができた。

その後、「事例報告：四国各県の小規模館から」として、愛媛県久万高原町面河山岳博物館の矢野真志氏、香川

県三豊市文書館の宮田克成氏、徳島県立佐那河内いきものふれあいの里ネイチャーセンターの田代優秋氏によって、それぞれの施設の取り組みについて報告があった。また私も報告者として、吉井勇記念館の事例から主に地域と連携した取り組みについて話をさせていただいた。

続いての、追手門学院大学の瀧端真理子先生による講演「小規模館運営の現状と課題ー社会構造の変化と博物館をめぐる法制度改革の動向を踏まえてー」では、社会構造の変化や自治体の財政状況を踏まえた小規模館運営の現状と課題について学んだ。

今回私は報告者として参加させていただいたが、他の施設の抱える課題や限られた条件の中でなされているアイデアやユニークな活動の話聞いてみると、自分たちの取り組みにもまだ改善の余地があると気付かされ、工夫次第でより良いサービスが提供できるよいうになるという希望を感じることができた。これほど多くの博物館の運営に携わる方々と交流できるのは貴重な機会であり、開催趣旨で述べられた成功モデルの発見、構築のためには、今後もちょういった場が設けられ、情報や意見交換を重ねていくことが不可欠であろう。

(香美市立吉井勇記念館 柳瀬美紀)

## 公開研究報告

### 被災した無形民俗文化財と地域復興における研究の役割 ー東日本大震災に伴う宮城県委託調査事業の報告

日時：平成25年12月2日 13時〜17時

場所：高知県立大学永国寺キャンパス  
講師：滝澤克彦（東北大学東北アジア研究センター教育研究支援者）

小谷竜介（東北歴史博物館学芸員）  
高倉浩樹（東北大学東北アジア研究センター教授）

東日本大震災では、有形無形を問わず、あらゆる文化財が被害を受けた。特に、民俗芸能や祭礼で使用する「道具」ばかりでなく、その重要な担い手である「人」、そうした行事が行われる「場所」まで失うこととなった無形文化財の被害は深刻である。近い将来起きるとされる南海トラフ地震に対し、「何かしなければならぬ」私たちが、内心「でも何から始めてどう動けばよいか分からない」と少なからず思っていることも事実である。こうしたなかで、本報告は「東北からの警鐘」をじかに受け取る好機でもあった。

や祭礼を構成する「道具」「人」「場所」はどれも重要な要素であるが、このうちどれかが失われる機会はままあるとしても、一度に失われる機会はめったにない。程度の差こそあれ、今回の災害では、道具や神殿の流失以外に、祭りの担い手の死亡、被災にともなう人家の集団移転などを同時に経験した地域もある。継承の観点から見れば大打撃である。

また復興においても、失われた道具の復元や祭りの復活については、無形文化財の本質に関わる多くの課題がある。こうしたものは、地元の人々が日常の営みのなかで数十年、数百年と受け継いでゆくなか、時代によって少しずつ変わること宿命づけられている。とすれば、祭りの道具や踊り、歌などが以前と違うものになるきっかけは今回の震災に限らない。無理ならば、いっそ「祭りを再開しない」という選択肢もありうる。継承が途絶えてしまふのは寂しい気もするが、担い手である地元の意向が最優先されるべきであろう。

報告では、東松島市や女川町など沿岸地域で被災した獅子舞や祭礼の被害状況と復興のありさま（滝澤報告）、被害を受けた重要無形民俗文化財・雄勝法印神楽の現状と失われた神楽面の新調（小谷報告）、東北の無形文化財と地域社会の被害と復興についての調査（高倉報告）について、それぞれの立場から詳細に伝えられた。民俗芸能

なお、今回報告された高倉・滝澤両氏の編による『無形民俗文化財が被災するということ』（新泉社）が、本年1月に刊行されたばかりである。興味のある方にはお読みいただきたい。

(高知県立坂本龍馬記念館 亀尾美香)

## 地域資料保存に向けた取り組み



中土佐町現地視察の様子

アンケート調査の  
集計・分析作業

平成25(2013)年度、地域資料調査部会では、前年度実施した『歴史資料』の保存等に関するアンケート調査の集計・分析作業を行った。以下、その結果の一部を報告する。

今回の調査では、高知県内全34市町村のうち、24市町村51機関(役場の担当部署・公立の博物館・資料館・図書館等)から回答を得ることができた。まず冒頭に各自治体が管理・保存し

ている歴史資料について、収蔵の有無を聞いたところ、約9割が「ある」と回答。その保存場所は、役場内や博物館・資料館、公民館等に点在しており、

収蔵スペースの問題から廃校を保存場所として積極的に活用している場合も一部の自治体でみられた。また図書館では、江戸時代からの地方文書や役場文書、美術工芸品等、多数保存している場合があり、特に郷土資料館をもたない自治体では図書館が地域資料の保存の役割を担う傾向がみられた。

さらにこれら収蔵資料の台帳の有無については、約7割が台帳をもとに管理(「一部あり」を含む)しているという回答。一方で、台帳が全くない資料群もあり、その大半は旧役場の行政文書であることがわかった。過去の行政文書が歴史的価値を有するものであることとはいうまでもないが、各自治体ともその取り扱いが定まっておらず、保存・活用にまで至らない実情が浮かび上がる。

続いて、各自治体内の個人や地区などの民間所在資料の把握状況についてである。過去に資料調査が行われ、所蔵者・所在地・所蔵する歴史資料の概要がわかる目録があると回答したのは、約1割。これらは自治体史編纂過

程での調査や、特定の主題、資料群に沿った調査によるものである。その他、所蔵者や地域住民からの情報提供による把握を含めても、わずか全体の3分の1程度にとどまる。ほとんどの自治体では、収蔵資料以外の民間所在資料の把握、保存は手つかずの状態であるという結果になった。

こうした背景には、「少ない職員と予算面での制約」「歴史資料の調査等にたけた専門職員の不在」「保管スペースの不足」等の課題が挙げられ、特に調査や整理、保存の技術面での支援が不可欠な状況であることが確認された。

以上、今回の調査で、各地の地域資料保存を取り巻く現状や課題を全県的につかめたことは、今後の保存に向けた具体的方策を考える上で大きな意義をもつ。なお、調査の詳細については報告書としてまとめる予定である。

## 現地視察の実施

次に、アンケート調査の成果を基礎に、より地域の実情を把握するため実施した現地視察について報告する。

今年度は中土佐町の視察を行った。視察では、地元文化財担当職員の案内のもと、部会メンバー6名が各施設の資料の保存状況を見学、情報交換を行った。

中土佐町では、これまで民具を中心に廃棄の恐れがある地域資料を町が積極的に受け入れ、保存を行ってきた。

資料の整理や保存環境面での課題はありながらも、保存場所として、空き倉庫や廃園の保育園等を活用し、まずは資料を残すことが重要という方針のもと進められている。また資料の散逸や活用を想定し、継続的に資料集を刊行する等の取り組みも行っており注目すべき点である。今後の主な課題として、町史で収集した資料の保存や津波対策等が挙げられることだが、いずれにしても中土佐町の取り組みは、県内でも先進的な事例であることがわかった。

今回の視察を終えて、地域の個別事情を背景にした課題や取り組み等、アンケート調査だけでは把握しきれない情報を多く得ることができた。中土佐町同様、他の自治体においても、独自の手法で資料保存に取り組んでいる可能性がある。現地視察をとおして、このような事例を積み重ねていくことにより、様々な課題を解決していくための現実的な手がかりになると考える。

今後当部会では、引き続き現地視察を進め、情報収集に努める予定である。さらにそれらをアンケート調査の分析結果とあわせて取りまとめ、地域資料保存の体制を構築していくための基礎資料として、高知県、並びに各自治体の諸機関と情報の共有を図っていききたい。

(土佐山内家宝物資料館 田井東 浩平)

※アンケート調査の趣旨、概要等については本通信11号「活動報告」参照。

# 研修「公文書の保存と利用」参加記



ば、館の設置に財源的措置がなく、人的にも余裕がないため、その対応が後手に回らざるを得ないのが実情だが、それだけではない。

問題の一つは、同法における「公文書等」が「現用のものを除く」（同法第二条）ことにあるように思う。つまり、「現用文書」の専門家たる行政事務職員には、歴史的価値を判断し、保存・修復の専門知識をも要求される「歴史的公文書」非現用文書の取り扱いが「専門外」に感じられてしまう。

現用文書から非現用文書となる過程にも問題がある。高知市における公文書の取り扱いには「高知市文書管理規程」に定められているが、そこには「歴史的公文書」の文言は無く、保存年限を過ぎた公文書は、原則全て廃棄処分となる。

現実には、高知市レベルであっても年間膨大な数の公文書が生み出され、その記録媒体は紙から電子媒体まで多様化し、非公開・不開示事項は年々複雑化しているところへ「歴史的公文書」の要素が加わるのだから、その対応は容易ではない。

しかし、地方公共団体には適切な措置を講じる責務がある。「専門職員」アーキビストの雇用は無理でも、その意識を職員に持たせることはできるはずだ。それは、まず各団体の長を今回のような講演会へ招くことから始まるのかもしれない。

（高知市情報公開センター 木下達哉）

## 25年度の活動報告

### 企画調整部会

- ・総会 6月19日
- ・幹事会 5月21日
- ・会報誌12号編集

### 研修企画部会

- ・情報交換会（6月19日）
- ①「歴史資料」の保存等に関するアンケート実施報告
- ②「新図書館と県立新資料館の進捗状況について」
- ③「高知県立生物標本を次代に残すには：四国自然科学研究センターの自然史博物館の活動」

### 【新入会員】

- ・田井東浩平（土佐山内家宝物資料館）
- ・谷地森秀二（四国自然科学研究センター）
- ・会場：土佐山内家宝物資料館

### 【教育普及部会】

- ・ホームページの更新
- ・高知市広報「あかるいまち」コラム『歴史方華鏡』リレー連載

### 【地域資料調査部会】

- ・部会の開催（8月3日、9月14日、11月6日）
- ・「歴史資料」の保存等に関するアンケート整理

### 【新入会員】

- ・中土佐町視察（11月29日）
- ・海洋堂ホビー館四万十
- ・海洋堂ホビー館
- ・津野町立図書館かわうそ館



高知県立文学館  
新キャラクター  
しおりちゃん



入口を入ると、ポニーテールのかわいらしい女の子がお出迎え。彼女は、高知県立文学館のマスコットキャラクターに就任した「しおりちゃん」です。

ちよっと小難しそうで、敷居が高い——そんな文学館のイメージを変え、子どもたちにも親しんでもらいたいと願い、平成24（2012）年春、全国から文学館をわかりやすく案内してくれるキャラクターを公募しました。300以上のキャラクターから4つに絞った上で、夏休み中に一般の方に人気投票をもらったのですが、圧倒的な人気で1位となったのが、しおりちゃんでした（この名前も、平成25（2013）年の春に公募によって決めています）。

とても真面目で、頑張り屋さんの彼女は、ちよっと口が悪くて紙芝居の大好きな相棒のヤイロチヨウ・筆太（びつた）と共に、高知県立文学館の案内係として、館のHPやフェイスブック、オリジナルグッズ、案内パンフレットで大活躍しています。

二人の姿を見かけたら、ぜひ応援してくださいね！

（高知県立文学館 永橋禎子）

# 科学館って何!?

高知県と高知市が平成28(2016)年度中の開館を目指して準備している新図書館等複合施設の中に、「こども科学館(仮称)」ができます。

こども科学館(仮称)の担当になってから、「科学館って何?」という質問を受けることがよくあります。これまで高知県に科学館が無かったからというところもあると思いますが、図書館や美術館など他の文化施設に比べて、「科学館」は少しイメージしづらいのかもしれない。

さて、この質問に対する答えですが、実は、この質問に答えるのは、今はまだ難しいと感じています。それは、全国にはたくさん科学館がありますが、どの科学館もとても個性的だからです。

物理や天文の現象を再現する展示装置がある科学館、科学技術や科学史に関する資料を展示している科学館、さらに、動物や植物の標本や恐竜の化石などの自然史資料も展示している科学館、そして児童館の機能を持った科学館や、電気・天文・気象・交通・水など特定の分野だけを扱う科学館など、さまざまなタイプの科学館があります。

また、科学館が行っているのは展示だけではなくありません。プラネタリウムで星空や映像を見せたり、サイエンス



こども科学館(仮称)展示室のイメージ

ショーや科学教室で科学の楽しさを伝えたり、学校と連携して理科の授業を行ったりと、それぞれの科学館で行われているイベントや教育活動も、とても個性的です。

現在、基本構想(平成23年4月制定)を具体化するべく、こども科学館(仮称)の準備をすすめています。科学館「こども科学館はこういう質問に対して、「高知の科学館はこういう質問に対して、こういうことができる!」と、明確に答えられるよう、個性を見出ししていきたいと思っています。

(高知市民図書館)

新図書館建設室 岡田直樹

## 図書館の窓

ミュージアムの重要な役割の一つとして「地域連携」が挙げられるようになって久しい。研究成果を地域に提供し、対話を通じて発展を目指すことは、地域社会からの信頼と協力を得るためにも必要不可欠だといえるだろう。

さらに、ミュージアムは、人々のつながりや関係を生み出し、魅力や価値を共に創る場として「地域を変える」一力を持ち合わせていると提言するのが本書である。

「社会イノベーションの触媒となる」「コミュニティの魅力を見える化する」「人々の協働プロジェクトを促す」「価値を共創する拠点となる」「ワクワクが変化を生み出す」の5つのテーマ別に、具体的なエピソードや関わる人たちの声を交えて30館の先導事例を紹介している。高知県からは、高知市の藁工ミュージアム、香南市の絵金蔵が大きく取り上げられているほか、魅力ポイント紹介では、建物を持たず、砂浜を美術館に見たてる幡多郡黒潮町の「砂浜美術館」も掲載されている。

ミュージアムの在り方を考えさせられるのももちろんのこと、地

## 地域を変えるミュージアム

—未来を育む場のデザイン—

地域との関わり方のきっかけ作りのヒントや、ちょっとした工夫のアイデアが散りばめられている。来場者参加型の展示といえども公募展を考えるが、その場で問いかけ回答をそのまま貼り出し展示の一部分とすることで発展させるなど、様々な手段があることに気が付かされた。館ごとに予算や人員体制等の制約はあるにせよ、その制約の中でも地域を巻き込む方法はいくらかでもあることを実感する。

本書からは、ミュージアムが地域を変えようとするだけではなく、地域とともに発展していくこととする双方向性の意識が伝わってくる。地域に場を提供し、事業成果を還元すると同時に、地域の人々によってミュージアムもまた育てられている。地域の一部分であるミュージアムの大きな可能性を感じさせられた。

(横山隆一記念まんが館)

奥田 奈々美



玉村雅敏編 2013年 英治出版刊  
本体 2,200円+税

名 称	〒	住 所	電 話	FAX	HP	休
安芸市立書道美術館	784-0042	安芸市土居 953-イ	0887-34-1613	0887-34-1613	×	月(祝日開館)※
安芸市立歴史民俗資料館	784-0042	安芸市土居 953-イ	0887-34-3706	0887-34-3706	○	月(祝日開館)※
いの町紙の博物館	781-2103	吾川郡いの町幸町110-1	088-893-0886	088-893-0887	○	月(祝日の場合は翌日)※
いの町立吾北中央公民館	781-2401	吾川郡いの町上八川甲2010	088-867-2133	088-867-2773	×	日祝※
絵金蔵	781-5310	香南市赤岡町 538	0887-57-7117	0887-57-7117	○	月(祝日の場合は翌日)※
越知町立横倉山自然の森博物館	781-1303	高岡郡越知町越知丙 737-12	0889-26-1060	0889-26-0620	○	月(祝日の場合は翌日)※
海洋堂かっぱ館	786-0322	高岡郡四万十町打井川 685	0880-29-3678	0880-29-3679		火(祝日の場合は翌日) (5/20-7/19 休館)※
海洋堂ホビー館四万十	786-0322	高岡郡四万十町打井川 1458-1	0880-29-3355	0880-29-3356	○	火(祝日の場合は翌日)※
香美市立美術館	782-0041	香美市土佐山田町 262-1 プラザ八王子 2F	0887-53-5110	0887-53-5498	○	月(祝日の場合は翌日)※
香美市立やなせたかし記念館	781-4212	香美市香北町美良布 1224-2	0887-59-2300	0887-57-1410	○	火(祝日の場合は翌日)※
香美市立吉井勇記念館	781-4247	香美市香北町猪野々 514	0887-58-2220	0887-57-5995	○	火(祝日の場合は翌日)※
公益財団法人 高知県文化財団	781-8123	高知市高須 353-2 高知県立美術館内	088-866-8013	088-866-8008	○	土日祝※
高知県文化推進課	780-8570	高知市丸ノ内 1-2-20	088-823-9790	088-823-9296	○	土日祝※
高知県立足摺海洋館	787-0450	土佐清水市三崎字今芝 4032	0880-85-0635	0880-85-0650	○	12月第3木
高知県立坂本龍馬記念館	781-0262	高知市浦戸城山 830	088-841-0001	088-841-0015	○	無休
高知県立大学総合情報センター図書館	780-8515	高知市永国寺町 5-15	088-873-2421	088-873-5130	○	日祝、第1水※
高知県立図書館	780-0850	高知市丸ノ内 1-1-10	088-872-6307	088-872-6479	○	月祝、月末金※
高知県立のいち動物公園	781-5233	香南市野市町大谷 738	0887-56-3500	0887-56-3723	○	月(祝日の場合は翌日)※
高知県立美術館	781-8123	高知市高須 353-2	088-866-8000	088-866-8008	○	(5/7-8/22 休館)※
高知県立文学館	780-0850	高知市丸ノ内 1-1-20	088-822-0231	088-871-7857	○	※
高知県立埋蔵文化財センター	783-0006	南国市篠原 1437-1	088-864-0671	088-864-1423	○	土日祝(講座等開催日は開館)※
高知県立牧野植物園	781-8125	高知市五台山 4200-6	088-882-2601	088-882-8635	○	※
高知県立歴史民俗資料館	783-0044	南国市岡豊町八幡 1099-1	088-862-2211	088-862-2110	○	※
高知市生涯学習課	780-8529	高知市九反田 2-1 高知市文化プラザかるぼーと 8F	088-821-9215	088-821-9217	○	日月祝※
高知市春野郷土資料館	781-0304	高知市春野町西分 340	088-894-2805	088-894-2812	○	月祝・第2木※
高知城懐徳館	780-0850	高知市丸ノ内 1 丁目 2-1	088-824-5701	088-824-9931	○	※
高知市民権・文化財課	780-8010	高知市棧橋通 4 丁目 14-3	088-832-7277	088-831-3378	○	月(祝日の場合は翌日)※
高知市立市民図書館	780-0870	高知市本町 5 丁目 1-30	088-823-9451	088-823-9352	○	月祝・20日※
高知市立自由民権記念館	780-8010	高知市棧橋通 4 丁目 14-3	088-831-3336	088-831-3378	○	月(祝日の場合は翌日)※
高知市立龍馬の生まれたまち記念館	780-0901	高知市上町 2 丁目 6-33	088-820-1115	088-822-1835	○	無休
香南市文化財センター	781-5453	香南市香我美町山北 1553-1	0887-54-2296	0887-54-2433	×	土日祝(第4日曜は開館)※
古溪城	786-0002	高岡郡四万十町見付 665	0880-22-1654		×	事前申込
子どものための民具体験館	780-0861	高知市升形 5-29	088-822-1764	088-822-1843	×	事前申込
金剛頂寺霊宝館	781-7108	室戸市元乙 523	0887-23-0026	0887-23-0726	×	事前申込、1/1~1/8・旧暦3/21 開館
佐川町立佐川地質館	789-1201	高岡郡佐川町甲 360	0889-22-5500	0889-22-5511	○	月(祝日の場合は翌日)※
佐川町立青山文庫	789-1201	高岡郡佐川町甲 1453-1	0889-22-0348	0889-20-9009	○	月(祝日の場合は翌日)※
四国自然史科学研究センター	785-0023	須崎市下分乙 470-1 新荘公民館内	0889-40-0840	0889-40-0840	○	土日祝※
四万十市立郷土資料館	787-0000	四万十市中村字土居山 2356	0880-35-4096	0880-35-4096	○	※
四万十町立美術館	786-0004	高岡郡四万十町茂串町 9-20	0880-22-5000	0880-22-5001	×	月祝※
定福寺土佐豊永万葉植物園	789-0167	長岡郡大豊町粟生 158	0887-74-0301	0887-74-0302	×	※
定福寺宝物館	789-0167	長岡郡大豊町粟生 158	0887-74-0301	0887-74-0302	○	※
ジョン万次郎資料館	787-0337	土佐清水市養老 303	0880-82-3155	0880-82-3156	○	無休
宿毛市立坂本図書館	788-0001	宿毛市中央 2-7-14	0880-63-2654	0880-63-0155	○	月祝※
宿毛市立宿毛歴史館	788-0001	宿毛市中央 2-7-14	0880-63-5496	0880-63-1319	○	月(祝日の場合は翌日)※
須崎市立図書館	785-0013	須崎市西古市町 6-15	0889-42-2141	0889-42-2141	×	月祝※
創造広場アクトランド(龍馬歴史館)	781-5233	香南市野市町大谷 928-1	0887-56-1501	0887-56-1506	○	臨時休館中
竹林寺宝物館	781-8125	高知市五台山 3577	088-882-3085	088-884-9893	○	無休
津野町立図書館かわうそ館	785-0202	高岡郡津野町姫野々 433-2	0889-55-3001	0889-55-3555	○	火祝・第4金※
特定非営利活動法人 黒潮実感センター	788-0343	幡多郡大月町柏島 625	0880-62-8022	0880-62-8023	○	土日(10~6月)・月(7~9月)
特定非営利活動法人 高知こどもの図書館	780-0844	高知市永国寺町 6-16	088-820-8250	088-820-8251	○	火木
特定非営利活動法人 地域文化資源ネットワーク	781-5103	高知市大津乙 472-1 ハイツサンヴァリエ 101	080-6721-3074		○	
土佐市立市民図書館	781-1101	土佐市高岡町甲 2177	088-852-3333	088-852-3484	○	月祝※
土佐山内家宝物資料館	780-0862	高知市鷹匠町 2 丁目 4-26	088-873-0406	088-873-0406	○	※
豊永郷民俗資料館	789-0167	長岡郡大豊町粟生 158	0887-74-0305	0887-74-0302	×	※
中岡慎太郎館	781-6449	安芸郡北川村柏木 140	0887-38-8600	0887-38-8601	○	火(祝日の場合は翌日)※
中村時計博物館	783-0011	南国市後免町 1 丁目 5-26	088-864-2458	088-864-5249	○	無休
平和資料館・草の家	780-0861	高知市升形 9-11	088-875-1275	088-821-0586	○	水日祝
民間非営利団体 高知文化財研究所	782-0016	香美市土佐山田町山田 1645	0887-52-0736	0887-52-0736	×	
横山隆一記念まんが館	780-8529	高知市九反田 2-1 高知市文化プラザかるぼーと内	088-883-5029	088-883-5049	○	月(祝日開館)※
龍河洞博物館	782-0005	香美市土佐山田町逆川 1434	0887-53-4376	0887-53-2145	○	無休
藁工ミュージアム	780-0074	高知市南金田 28	088-879-6800	088-879-6800	○	火(祝日の場合は翌日)※
わんぱーくこうちアニマルランド	780-8010	高知市棧橋通 6 丁目 9-1	088-832-0189	088-834-0929	○	水(祝日の場合は翌日)※

※は特別休館日あり(年末年始等)

こうちミュージアムネットワーク通信 第12号 平成26(2014)年5月21日発行

■編集 こうちミュージアムネットワーク企画調整部会(高知市立自由民権記念館/高知県立歴史民俗資料館/横山隆一記念まんが館/わんぱーくこうちアニマルランド)  
 ■事務局 (公財)土佐山内家宝物資料館 ■電話 088-873-0406 ■URL [http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/network/konet\\_home.html](http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/network/konet_home.html)  
 ■印刷 弘文印刷(株)